

★対象はサロン学習者またはボランティアの方。

★申込みはサロン事務局まで。

■ ボランティア勉強会

1月21日(水) 午前10時～12時

テーマ:「どうしよう!? 動詞の心がわからない…」

ーゲームで楽しむ動詞の活用ー

グループに分かれてゲームワークを行います。

■ 井戸端会議(おしゃべり会)

1月22日(木)午後2時～4時

■ 東京外国語大学連携講座

1月16日(金) 午前10時～12時

場所: 国際交流サロン

「府中に住む外国人と交流しませんか？」

地域に暮らす外大生と防災について話し合います。

「1月30日金曜午後クラス」は、 お休みです。

「1月30日金曜午後クラス」は、会場の都合でお休みになります。勉強はありません。

なお、「1月30日金曜夜のクラス」は、いつもどおり勉強できます。(事務局)

合う機会を持ち交流しようと始められました。
(会場いっぱいの43名の参加です。)

今回はベトナムのグエンさん、イタリアのアントネッラさんのお二人の「お国自慢」を伺いました。

グエンさんはハノイの北西にあるライチョウの出身です。美しい棚田の風景と米作りの一年、そして巨木な茶樹、樹にのぼっての茶摘みの姿を説明して下さいました。

アントネッラさんはナポリの出身です。ご自慢の場所、食べ物、飲み物を紹介されました。さすがスローフード発祥の地であるイタリアの美味しそうなピッツァ、パスタ、スイーツの数々とエスプレッソコーヒーマーカーの使い方の説明もありました。

それぞれのお話の後、参加者から様々な質問が活発に行われました。食べ物、飲み物、気候風土、歴史、観光案内まで、多岐にわたっての質疑応答です。

ベトナム、イタリアは、奇しくも日本と同じ南北に長い国土です。似ている所、違う所、楽しみながらの学びの機会でした。

第二部ではベトナムの高級なお茶とお菓子、イタリアのエスプレッソコーヒー、手作りクッキーをいただきながらの懇親会でした。グエンさんとアントネッラさんがお菓子のトレーを持って各テーブルを回り、お話しされている姿がとても楽しそうでした。会場和気あいあいの雰囲気、参加された方々が満足されたのでは、と思っています。

イベント報告

「サロン国際理解講座」、大盛況!

企画部会 千葉幸代

昨年12月6日(土)、「第2回サロン国際理解講座」がルミエール府中2階講習会議室で開催されました。府中で生活されている外国人と市民がお互いに知り



世界の文化

「ベトナムのお正月」

ベトナム グエン・ティー・チャーミー



こんにちは！

グエン・ティー・チャーミーと申します。ミーと呼んでください。ベトナムから参りました。

今日はベトナムのお正月を紹介させていただきます。ベトナムのお正月は日本では旧正月で Tet (テト) とよびます。ベトナムには祝日が少なく、テトは一番大きい祝日でみんなの楽しみです。今年は1月27日から2月5日まで10日間がテトでした。地方の習慣によって、又は家の習慣によって少し違いますが、だいたい同じです。これから写真を使いながらベトナムのお正月を紹介いたします。

最初はお正月を準備するため、大掃除です。(2ページ) それからお正月のための料理を準備します。その中でも必ず餅米巻が必要で、餅米巻はバンテットと言います。(3ページ) 餅米巻の作り方を紹介します。皆さんご覧の通り、バナナの葉っぱで巻きます。真ん中は緑豆と豚肉です。8時間から10時間ぐらいゆでて、この結果になります。(4ページ) 餅米巻と一緒に食べるのはらっきょうとハムです。(5,6ページ) 掃除が終わって、料理も準備できて、次は部屋の飾りをします。みんなは花市場へ行って好きな花を選

びます。(7ページ) ベトナムの南の方は必ず飾りたいのは黄色い梅です。(8ページ) 花以外は仏壇に意味を持っている果物も積みます。(9,10,11,12ページ) 例えば赤い果物のスイカは幸運、黄色いマンゴはお金、バナナはたくさん子供が叶うようにという意味です。おみそかに家族が集まって一緒に食事して今年にさよならします。

新年1月1日の朝、最初は家族が集まって、おじいさんおばあさん、お父さんお母さんが子供たちにお年玉をあげます。お祝いとかいい言葉を言います。それから親戚、周りの近所の家に行ったり、お寺で初詣したりします。まだまだ紹介したいことが多いですが時間がないので、ここで終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

※ 本文中の頁数はパワーポイント使用時の写真の頁です。

「中国の正月」

中国 庄緒林



日本は古くから中国の影響を受け、多くの伝統的な祝日は中国から伝えられた。昔から日本と中国は伝統祝日を祝う時に、共通点がたくさんあったが、時間が経つにつれてその習俗もだんだん変わってきた。

た。今回は 両国の国民にとって最も重要な伝統行事である「お正月の飾り」について話します。

日本のお正月飾り

日本では、正月飾りってどんなものがあるだろう。主なものとして、門松、鏡餅、しめ縄がある。しめ縄は地方によって、「しめ飾り（注連飾り）」と呼ばれている。形もそれぞれ変わってくる。

門松

この門松は、正月飾りの中でも重要なものとされ、正月に家庭に福をもたらしてくれる「年神様」が迷わないようにする目印となるものだそうである。年神様の「依代（よりしろ）」という。

しめ縄

地方によって「しめ飾り（注連飾り）」とか呼ばれ、神様の占める場所の境界線を示すものだと言われています。玄関に置けば、家の中に不浄なものが入らないとされる。

鏡餅

お正月に丸くした餅を重ねて、年神様のお供えとして 神棚や床の間、家の主だったところに置く習慣がある。鏡が円形だから、鏡餅という名がつけられたということである。

中国のお正月飾り

中国では 正月は「春節」と呼ばれる。いくつかの代表的な飾り物がある。

めでたい対句「春聯」

春聯（しゅんれん）は、年越しの前に玄関の左右に貼り付ける一対の長い紙で、それぞれ美しい筆跡で、めでたい文句が記されている。二つの文句は巧みな対句になっており、時代背景や素晴らしい新年への期待を読み取ることができる。都市でも農村部でも、春節を迎えるたびに、家々は選りすぐりの赤い春聯

を玄関に貼り、祝日の喜ばしい雰囲気をもさらに盛り上げる。

窓の切り絵と逆さまの「福」

玄関に春聯を貼るときに、家の扉や壁、門の横木に大小の「福」の字を飾る人もいる。幸福な生活への希望や素晴らしい未来への願いが託されている。

さらにひとひねり効かせ、福の字を逆さまに貼る人もいる。「倒立の倒（さかさま）」の発音は、「到来するの到」に通じるので、逆さまな福の字は、「福の到来」を表わすという。

めでたい絵「年画」

年画は、中国の古い民間芸術で、庶民の素朴な風俗と信仰を反映している。春節に年画を貼り、人々が新年を祝う素晴らしい願いを託する。印刷技術の発展につれ、年画の内容も単調なテーマから、豊富かつ多彩になった。

そして、日本では正月が過ぎたら飾ってあった門松などを取り除くが、中国では壁に貼った「春聯」と「年画」は春節が過ぎてもそのままにしておく。

お正月を祝う民族習慣は、日本と中国では異なるが、日中両国民の新年を過ごす気持ちはきっと同じだろうと思います。

脚注)年画と春聯の実例は、ネットで調べるとたくさん見つかります。ぜひチェックしてみてください。楽しいですよ。



「日本のお正月」

げつようごご 月曜午後ボランティア おおしま ようこ 大島 洋子

日本のお正月を語るとき、「おせち料理」は外せない。

おせち料理というのは「節供」からきた言葉。季節の変わり目の“節の日”に神様にお供えした料理。なかでも新年の節供は、豊作を祈って豪華なお供えで祝ったことから、おせち料理といえは正月料理をさすようになったという。

自然に恵まれた日本で、海・山・野の幸を素材に彩りよく、栄養のバランスも考え、しかも縁起物

づくしでまとめたおせち。現代に見られるおせちの原型は江戸時代に確立され、めでたさを重ねるとい

う意味から重箱が使われるようになったとされる。おせちの中で欠かせないものが、お屠蘇やお神酒に添

える「祝い肴」で、数の子、黒豆、田作り(ごまめ)。数の子には子孫繁栄を託し、まめまめしく健康にす

ごせるように黒豆で縁起をかつぐ。五穀豊穡を願う田作りの素材はカタクチイワシ。呼び方は、イワシ

類がかつては稲作の肥料に使われたことに由来し、「五万米」とも。また必ず加えられるダイコン、ニンジン、ゴンボウ、コンブ、コンニャクは、みんな「ン」

がついて開運に通じる「五運」の食べものとされる。食材や調理法、味の組み合わせも巧みで、重詰

には甘いもの、酢のもの、焼きもの、煮物などが美しく盛り付けられ、栄養学的にも理に叶い、そこには

先人の知恵や見識が詰め込まれている。また語呂合わせや漢字の表意、表音による縁起かつぎ、言葉遊びも楽しい。

日本の文化の伝統や風習が凝縮されているお正月だが、生活スタイルや食生活の変化でその

伝統は揺らぎつつある。一年前、和食がユネスコの

無形文化遺産に登録された。そのユネスコ条約の本来の意図は、「危機に瀕している文化」保護にあるという。年の初めを機に、身近なところから日本の文化を考



絵手紙 蔡欣怡(台湾)

勉強会報告 第56回

「学習者に合った教材の選び方」
もう一度サロンライブラリーを覗いてみよう!

勉強部会 萱生由美子

日時：12月17日(水)午前10:00~12:00

出席者：21名

府中国際サロンのボランティアは、「みんなの日本語初級I, II」を教材として日本語研修を受けた後、それぞれの学習者に日本語を教えています。日本ではこのテキストが一般的に多くの機関で使われていますが、必ずしもこのテキストを使って日本語学習を終わらせればよいというわけではありません。

学習者は、短期間日本にいる人、時間をかけずに専門的な日本語だけを学びたい人、生活に根付いた日本語を早く覚えたい人、長い時間かけてしっかりと文法の基礎から学びたい人、自分の子供が学校生活で困らぬように漢字の読み書きを初歩から学びたい人、日本人と結婚して日本で暮らす人、外国人留学生など多種多様な状況の中にあります。

私たちボランティアは、学習者の状況に応じてそのニーズに合った教科書や教材を選んであげることが大切です。

本日の勉強会では、現在サロンの図書室にあるものに加えて、ニーズに合わせての教材及びその選び方の紹介をしました。

投◇稿

たかくら けん いんしやう
「高倉 健の印象」

よう てつめい
楊 鉄明

(教科書と副教材) 参考にしてください。

【教科書】

「みんなの日本語初級」 I・II
(スリーネットワーク)

「文化初級日本語」(改訂版) I・II
(文化外国語専門学校)

「新文化初級日本語」(文化外国語専門学校)

「国際交流基金 初級日本語」

「日本語生中継」 初中級 (くろしお出版)

【会話用に使える副教材】

「絵でマスター」日本語基本文型85 (凡人社)

ひらがな・カタカナ

「日本語 かな入門」
—国際交流基金— (凡人社)

漢字 「生活漢字 306」
「BASIC KANJI BOOK vol. I・II」
(基本漢字 500 Vol. I・II)

*他にも多くの教材が紹介されましたので、資料が必要な方は勉強会にご相談ください。

もうひとつ必要なのは、ボランティア自身が日常生活の中で、日本語に興味をもつことです。町を歩きながら看板を見たり新聞広告を見たりして、その中からヒントを得たりすることもできます。「サザエさん」など4コマ漫画の吹き出しを隠して会話を考えてみるなど、楽しみながらの学習もよさそうです。

さらに最近では教科書や教材が電子化されている傾向もあり、インターネットの情報なども学習に役立ちそうです。

是非、サロンのライブラリーを覗き、学習者に合った教材を見つけてください。

あなたが好きな日本の俳優は誰ですかと聞かれると、私は迷わずに「高倉健です」と答えます。

中国の私の世代の人にとって高倉健を知らない人はほとんどいないでしょう。現在でも人気がある俳優さんです。そうですね、その時はちょうど文化大革命後で、外国映画に飢えていた中国では高倉健の主演した「君よ憤怒の河を渉れ」(中国の名は『追捕』)という映画が輸入されると、あっという間に中国中に広まりました。たくましい体の背筋をピンと伸ばし、寡黙であり、言い訳をせずに筋を通し、ダスターコートを着ている姿は格好いいというイメージを人びとに残しました。今も忘れられません。その後、彼の作品は数多く中国に紹介され、日本人の代表的存在となっています。最近、インターネットで高倉健のプロフィールを読み、彼の多くの映画関係者への気遣いや筋を通す人格などを知り、彼にますます敬意を払うものです。記：2011/12/5

高倉健さんが去っていきました。でも彼の人間像は益々鮮明になっています。私も彼のように謙虚、充実した生活を送りたいです。追記：2014/11/30

「新3秒ルール」

きんやうご ばんらんてぃあ こいらいまさと
金曜午後ボランティア 小岩井雅人

日本語指導をしているときのお話です。「外国人から見た日本の不思議な習慣」に関する本の中で、日本人の女性は笑うときに口をおさえて笑うことは陰口やゴシップをお話しているようで外国人から見ると快い行為だと思われていないと書いてありました。日本の奥ゆかしい行為が外国人から見るとこそしているように見えるそうです。でも、でも・・・

口を抑えるのは一昔前の話で今の女性は口をおさえて笑う人など少ないと説明しました。外国人向けの日本の風俗習慣を記述した本には一昔前の日本のことが書かれているような気がします。

日本では新3秒ルールと言うのがあり、落ちた食べ物をまだ落ちてから間もないから3秒ルールで大丈夫と言って拾って食べる人を見かけました。3秒ルールとは元々バスケットボールのルールでボールを離さなければならないタイミングを言っているのです。これが食べ物だと手から離れて3秒以内だとばい菌がまだついていないから大丈夫だと自分に言い聞かせて、また周りの方に納得させるように独り言のように使っているということです。もちろん多くの方にはあてはまりませんが、いままで二人ほど女性の方が私前で3秒ルールを使いました。男性が見栄を張るのと比べて、女性はたくましいし現実的だなと思った瞬間でした。

皆さんよろしく◇学習者紹介

メリー・リンダ・ケスマ(インドネシア)



「店内でお召し上がりでしょうか
と聞かれたときは、???でした」

インドネシアはジャカルタから来た、明眸皓歯の

公務員さんです。愛称はメリーさん。これファースト・ネームかと思うと、「全部が名前です。苗字はありません」。

大学では統計学を専攻。国家統計局に勤めながらスカラシップ資格を取得し、日本の大学院で「経済政策」を学ぶミッションをもらいました。そして、2010年7月に来日。現在は六本木のS研究大学院大学の博士課程で、鋭意、研究をつづけています。

研究室ではもっぱら英語、アパート(同国人女性との3人住まい)に帰ればインドネシア語。勉強をし直しはじめたばかりの日本語は、細かく変化させたり、まったく違う言い方をするとところが難しいです。「一つ」「1個」ですまらず、「1匹、1本、1台、1着」と言いかえたり。インドネシア語で「きょうマカン」「きのうマカン」「いまマカン」と言うところを「食べます」「食べました」「食べています」と変化させる。フード・ショップで「店内でお召し上がりになりますか?」と聞かれたときは、それが「ここで食べますか?」という質問とは思いませんでした。

日本人は、道を聞けばわざわざ案内してくれるし、あの震災の時は、スーパーに牛乳を買いに行くと、最後の二つをカゴに入れたおばあさんが、すぐ後ろにいた私の顔を見て一つ分けてくれた。うれしいよりもその親切なことに驚きました、というメリーさんでした。(坂倉)

新ボラさん こんにちは!

「はじめまして」

水曜日ボランティア 市村秀子

府中に引っ越して来て12年。すでに子どもは成人していたので、地域との関わりはあまりありませんでした。ですから、仕事をやめて時間ができたら、地域と関わりを持つボランティアをしたいと常々考えていました。そんな時、近所に住む友人から、この日本語ボランティアの話聞き、早速、日本語教授法

研修会を受講しました。そして、9月から本格的にボランティアが始まりました。

ボランティア初日、私の担当になった学習者は、来日して間もない方でした。「はじめまして」と満面の笑みで挨拶され、緊張していた私もホッとして、「はじめまして」と笑顔で返事をしました。やはり「笑顔」は最大のコミュニケーションのツールです。また、国や世代は違うけれども、好きな映画や俳優、好きな歌や歌手、好きな食べ物など、お互いの共通点を見つけては、お互いに嬉しがったりしながら勉強を進めていきました。

私たちが日頃、難なく使っている「促音」「拗音」「長音」も外国人にとっては至難の業です。5年前から趣味で始めた韓国語学習ですが、私は日本にはない発音がどうしても言えません。だから、「促音」が上手に言えない学習者の気持ちがよくわかります。先日、中村則子先生の「音声指導 留意点」というボランティア勉強会に出席して、様々な学習法を学びました。言葉を学ぶ立場からも、教える立場からもしっかり勉強になりました。

まだまだ未熟なボランティアですが、学習者の方々が、日本で楽しく暮らせるお手伝いのできたら嬉しいと思います。

京都だより

～98～

「京友禅」

数納基雄

時代小説が好きでたくさん読んでいます。昔の町に興味があるので江戸古地図と首っ引きです。意外な発見もあります。江戸時代のファッションについても学びました。以前から不思議に思っていたのは、関東と関西で服飾の好みがちがうことです。その原因をたどると江戸時代の流行に遡ります。江戸後期、著多禁止令が出て女性は花鳥風月の刺繍ものが着られ

なくなりました。そこで登場したのが手描き友禅です。京都の宮崎友禅斎という扇絵師が始めたので、友禅染と呼ばれました。お洒落好きな女性たちはたちまち夢中になり、京友禅は上方で大ブレイクします。以来昭和の半ばまで、京友禅は一世を風靡しました。地方の呉服屋さんは京友禅や西陣帯を求めて、季節ごとに京都通いをしました。

江戸に広まった友禅は、別様の進化をとげます。京友禅は「御所解き文様」が好まれた。四季の草花を細密に描き、そこに御所車・扇・柴垣など、源氏物語などに出る王朝風物を配する模様です。上品な華やかさを意味する「はんなり」の美意識です。いっぽう江戸友禅は、渋く落ち着いた色合いと洒落な作風が特徴です。上方とはちがう江戸の「いき」の美意識です。やがて「江戸小紋」が人気となる。遠くから見ると無地に見えるほど細かい模様を散らした着物です。鮫の肌のように細かい点々を円弧状に重ねた鮫小紋が愛されました。もともとは諸大名が着用した袴の模様が発祥で、いわば江戸城由来です。京友禅は御所に由来し、江戸小紋は江戸城に由来する。なるほどとうなずけます。

やがて錦織物の生産が増えて、庶民にも手のとどく木綿の着物が大ブームになります。そして粋好み・渋好みの江戸っ子がもっとも愛したのが縞柄です。芸者さえ縞柄を着たといいます。子持縞、盲縞、だんだら縞、棒縞、よろけ縞など数え切れぬほど多様な縞柄が生まれました。芝翫縞(しかんじま)、市村格子、菊五郎格子など、役者が好んだ縞柄も流行りました。また江戸の流行色は「四十八茶百鼠」と言われるほど地味だった。現代になると京友禅はおもに若いお嬢さんの晴れ着として、いっそう華やかな花柄の全盛になりました。こうしてみると「上方・友禅・派手好み」「江戸・縞柄・渋好み」という構図が浮かび上がってきます。色や柄は街の風景になります。幼いときからこましゃくれた女の子たちの頭に刷り込まれます。美意識はたしかに遺伝するのです。

私の☆つばやき

～サロン・ツイッター・コーナー～

☆「ことばのゆらい」 下戸編

わたしはお酒を飲むときとして具合が悪くなる。「下戸」ですねと言われ、どうしてお酒を飲めない人を下戸というのか調べてみたくなりました。

中国から伝わった律令制のもとでは、「大戸、上戸、中戸、下戸」と呼ばれる四等戸があり、下戸はその最下級にあたる。「戸」は課税の最小単位で、家族の人数や資産によって税が決められたり、婚礼時の酒の量が「上戸」は八瓶、「下戸」は二瓶であったことから、酒を飲めない人を「下戸」と言うようになったということです。

現代の「アセトアルデヒドを分解する酵素のない人、少ない人がお酒を飲めない」というのと違って、経済的に飲むことの出来ない人を差別的、侮蔑的に言ったらしいです。

お酒を飲んで、気持ちの良くなる人に比べ、気持ちの悪くなる人では人生80%損と聞いたことがあります。もっと損をしている感じがします。

小説の中では、女性一人でバーに行きアバンチュールがあるシーンがずいぶん出てきますが、全く無縁な私はやっぱり損をしているのでしょうか。

(A u n t y)

日本語おちぼひろい

～22～

「鬼の部屋からよりが出と」？

和田泰弘 (金曜夜)

「鬼の部屋からよりが出と」 — 民話に出てくる

怖い話しの題名のように、種明かしするとこれ、「を・に・の・へ・や・から・より・が・で・と」。連れ合いが、中学生のとき、友人が格助詞を覚えるのに使っていた語呂合わせだと教えてくれました。

助詞というと「てにをは」を思い出します。「助詞」の代名詞ということぐらいいは知っていましたが、「てにをは」と並んで頻繁に使う「が」「の」「と」「で」などが抜け、なぜこのようにいうのか今の今までその由来を知りませんでした。平安時代、漢文を読むときに、訓読するための補助の文字記号を漢字を囲むようにその四隅に置きました。他にも文字記号がありました。いちばん使われたのが「天爾遠波」で、これを左下から右へ順番に読むと「てにをは」になったことが始まりとのこと。

閑話休題。助詞といえ、必ず通過するのが「は」と「が」の使いかたの悩ましさです。主語廃止論を唱えた国語学者の三上章氏は、「象は鼻が長い」という文章の構造を分析し、「は」と「が」の違いを世に問うたことで有名です。今中学校で教える助詞は、格助詞(上記)、接続助詞(ので・て等)、副助詞(は・も等)、終助詞(ね・さ等)の四つに分類され約五十種に上ります。「は」と「が」の違いについて教科書では、「富士山は、姿が美しい。」という例文を挙げ、「は」は提示を示す副助詞、「が」は体言「姿」に付いた格助詞、「姿が」は、「美しい」という述部に対する主語と解説しています。

助詞は活用も自立もできず、ひたすら体言・用言などにくっつくのみで、謂わばパラサイト、日陰者の存在です。動詞や形容詞のように決して華やかな活躍はできません。でも助詞がないと、塩やスパイスがない料理同様、言葉は味気ないものになります。例えば「彼」が「話す」。これだけでは、正確な意味が伝わらないし、文になっていませんね。「彼が話す」「彼と話す」「彼に話す」「彼も話す」のように助詞が入ると俄然、言葉に命が吹き込まれます。助詞は日本語の大切なスパイス。五十種のスパイスを使いこなすことができれば、きっと香り高い日本語を話し、書くことに近づけるでしょう。「助詞を制す者は、日本語を制す」？！

世の中あれこれ

ちきゅう ゆうげん 「地球は有限」

この冬は、例年よりも早く寒さが訪れ、続いています。台風も猛烈で強いものが多くなりました。海洋資源なども枯渇が心配されるものが増えてきています。

私たちは、“地球”という有限の惑星の上で暮らしています。私たち地球上の生命体は、そのバランスの上で発生し、その範囲内で生存できるように出来ています。私たちが、地球上での資源の連鎖、エネルギーサイクルの限度を超えた生活を続けると、地球のバランスが崩れ、結局私たちの生活環境が脅かされるように感じます。その暮らし方(生き方)を、地球環境のバランスが保てる範囲にとどめることが必要なのでしょう。

近隣国も含めて、共に叡智を出し合うお付き合いや国際交流を通じて、暮らし方(生き方)を工夫して環境維持を図りたいものです。(小林啓一郎)



絵手紙 リー(中国)



絵手紙 チャン・ティ・レ・ミー(ベトナム)

へんしゅうこうき ～編集後記～

あけましておめでとうございます。

昨年(さくねん)はたくさんのイベントが開催(かいさい)され、多くの方々(おお)のご協力(きょうりょく)を得(え)て、盛大(せうだい)にそして楽しいものとなりました。ほんとうにありがとうございました。

そして、今年(ことし)2015年(ねん)、未年(ひつじどし)です。群(む)れをなす羊(ひつじ)は、家族(かぞく)の安泰(あんたい)を示(し)め、いつまでも平和(へいわ)に暮(く)らすことを意味(い)しているそうです。

昨年(さくねん)はたくさんの災害(さいがい)も起(お)こり、悲(かな)しい出来事(できごと)も多かったように思(おも)います。今年(ことし)は是非(ぜいひ)、未年(ひつじどし)にあやかって、平和(へいわ)で穏(おだ)やかで、健(すこ)やかな年(とし)にしたいものです。

サロンも20周年(しゅうねん)を迎(むか)えます。みんなで協力(きょうりょく)して、さらに大きな輪(わ)を、充実(じゅうじつ)したサロンにしていきたいと思います。

本年(ほんねん)もどうぞよろしくお願(ねが)いいたします。(あじま)

【編集(へんしゅう)】会報部会(かいほうぶかい)/ 安島(あじま)、飯島(いひじま)、坂倉(さかくら)、篠塚(しのづか)、進藤(しんどう)、数納(すのう)、高柳(たかなぎ)、堤林(つみぼやし)、増田(ますだ)、和田(わだ)

【事務局(じむきょく)】電 話(でんわ) : 042-352-4178

E-mail : salon@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

